

令和6年度 第2回 裾野市の教育のあり方検討委員会 記録

※18時30分開会

※20時00分閉会を目処

学校教育課長	定刻となりました。本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。私が、本日の司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。はじめに、開会を教育部長よりお願いします。
教育部長	ただいまから「第2回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。どうぞよろしくお願いいたします。
学校教育課長	次に、教育長より挨拶をお願いします。
教育長	第1回の検討委員会ということで、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。論点整理の会議を行い、3つの軸で話し合うということでどうかという話になりました。これらはどういう場で話し合ったらよいかということで、自分を生かす、インクルーシブへの対応、地域とともにある教育という場で話し合うことで論点整理を行いました。本日は、自分を生かす教育ということで、皆様の意見をうかがえたらと思います。よろしくお願いいたします。
学校教育課長	次に、委員長より挨拶をお願いします。
委員長	今日もまた議論をお願いします。1つのテーマが出てきて議論していくと、何のためにやっているのか忘れてしまう。3つの軸で考えていく。それぞれの方の経験に基づいたお話をうかがえればと思います。
学校教育課長	次に、協議事項に入らせていただきます。ここからは、村山委員長に議事進行をお願いします。
委員長	それでは、議事を進めていきたいと思います。本日は、資料にあるとおり1つの事項につきまして協議を進めていきたいと思います。はじめに、「自分を生かす教育を実現させるためには、どういう環境作りや取り組みをしていったらいいか、どんなことに気を付けたらいいかについて 事務局より説明をお願いします。
教育監	人と人をつなぐ教育を実現するために、以下の3つの教育に取り組んでいきます。 (1) 自分を生かす教育 (2) 地域とともにある教育 (3) 多様性に満ちた教育 3つの軸（コミュニケーション、インクルーシブ、地域コミュニティ）で考えていきます。
委員長	本日は、自分を生かす教育ということで環境づくりや取組について御意見

	をいただきたいと思います。
委員	A3 の用紙の要点を教えてください。
教育監	自分を生かす教育の中で、どんな力があつたらいいか。その力を育むにはどんな環境があり、どんな取り組みをしていったらよいかというところで御意見をいただきたいです。 インクルーシブの視点に立つと、このような力が欲しいのではないかな、そのためにはどんなことをしたらよいかアイディアを出してほしいです。地域コミュニティも同じで、いろいろなアイディアをいただきたいということです。
副委員長	自分を生かすといったときに、裾野市の教育の中で居場所づくりというのがあります。子供たちが自分の居場所があるということで、授業づくりなどを行っているが、そことリンクしていると思いました。 子供たちに自分の居場所があつて、自分の力を発揮して認められるといった経験ができるように、力を生かせる環境を作っていくことが大切だと考えています。 不登校もいろいろなケースがあり、それをサポートする人がいろいろな分野でいるといいと思います。子供たち一人一人が安心して過ごせるように、それを第一に考えていきたいと思っています。
委員長	居場所づくりの話が出てくるのは不登校の子をきっかけにですが、誰もが支援が必要、それぞれの子供にとっての居場所っていうのを考えていきたいと思っています。具体的に今どんなことをされていますか。
委員	行事とか、学級の中で一人一役とか、自分のことが話せるとかも一つだし、キャンプや行事等において自分たちでやっていく中で達成感を味わい、それが居場所を見つけることにつながっていく。 また、地域に発信して新しいことができるといいなと思います。
委員	これからの裾野とは言いますが、やっぱりかかわりに戻ると考えています。学校はそこに戻る、授業でもそうだし、人と人とをつながれる力をつけさせたいです。このことは、これまでやってきたことかなと思います。
委員長	学校でもつながりづくりをメインにした取組をしていると思いますが、今どんなことをされていますか。
委員	今の時期だと体育祭と文化祭で、それぞれの思いを出し合って実行していくことをしています。今後はそれをより大切にしていけないといけないと思っています。それぞれの思いを出し合って計画を立てて実行していくことは大切にしていきたいです。 学校の活動としては、インクルーシブでいうと人権感覚というか当たり前に持っていないといけないもの、かかわるというのは、みんながこんな力をつけたいと共有しないといけないところだと考えます。 また、コミュニティは関わる力をつけていく手段だと感じているので、うまく生かしていくことがこれからの中で非常に大切になってくると思います。
委員	多様な人と関わる力と、地域コミュニティが関係していると考えていま

	す。行事で外部から来る人の話を聞いたり体験したりすることで主体的な活動につながってくるし、学年によっていろいろなゲストに会うことで、生徒も楽しみになります。中学も最近トヨタの方が来たということで、その時間が楽しみになって、生徒が主体的に学べるのではないかと思います。
委員長	外部講師の方に来てもらう話ですが、逆に高校生が外に出ていく活動はないですか？
委員	企業見学など、こちらから出向いてというのはあります。また、トークフォークダンスとか、外部からゲストを招き、話をするというのがあります。トークフォークダンスは、外部や地域の人々が学校に来て、生徒と順番に話をしていくものです。
委員長	県の高校の教育計画で、地域のセンターを作る話があった、高校生と企業が関わって出来たらという話になったことがあります。自分がもうちょっと関われないかと思わないですか。
委員	話を聞くだけでは不完全燃焼な印象があります。実際に持ち帰れるものがあったり、体験するものがあったりすると良いと思います。
委員長	地域がらみでいうと、地域の食材を生かしたメニュー作りなど、地域を盛り立てていこうという取り組みがあるが、裾野市にはありますか。
委員	商品開発を進め、農家の方と一緒に作って商品化することを進めています。
委員長	高校のカリキュラムとしてやっていると。そういうのって、中学校からできるのでしょうか。
副委員長	授業でおいしい水を紙コップに入れて配ってというのを、何年かは続けました。その時の4年生は、自分たちの立てた計画でやっていたので、生き生きしていました。
委員長	この手の行事はずっと続くと飽きてくるので、少しずつ変えていかないといいところがあります。
委員	学校も地域コミュニティの一つなのに学校内、学校外に分かれてしまっているように感じます。開かれた学校づくりには、学校にいろいろな人がいることも大事。クラスの自分、部活の自分・・・いろいろな人とかかわる中で自分を出せると思います。 インクルーシブについて、自分のことを伝えるというと、SOSをいえる子供だと思っています。人と人をつなぐことは、強さでつながるというのと弱さでつながるといふのがあると思います。
委員長	いろいろな視点を出してもらいました。学校の中、外の壁を解消していくにはコミュニティ・スクールがあるが、どうですか？
委員	運営協議会に立ち会うことがあるが、そこでは活発な意見が交わされていますが、子供たちととなるとつながりが弱いと感じています。

委員長	どうしたらいいと思いますか？
委員	本当は運営協議会に子供がいるといいと思っています。その中にいることで認められる良さがあるし、地域の方がこんなことをやってくれているということを知る機会になります。 子供が参加できる場にしていくことが大事だと思います。
委員長	いろいろなつながり方を考えなきゃと思うが、弱さでつながるとは？
委員	得意なことや好きなことでつながる場面は多いが、悩みや弱さでつながる場面もあると思っています。SC がそうなのかもしれないけど、弱さや SOS でつながることもあると思います。
委員	学校運営協議会は、始まる時間が遅いところがあるが、地域の方が来るので堅い話になりがちな印象があります。子供たちの目線でという話にならないので、構成自体を変えないといけないと思っています。ダメって言わない環境を作ってあげないといけないなと考えています。あと、子供たちが意見を言える環境を作ってあげないと辛いなと思います。
委員長	ICT をつかってみたいな話にもなるが、子供のことを考えてやると特徴的な取り組みになると思います。子供が活躍できるコミュニティ・スクールを作っていくことにつながるのではないのでしょうか。
委員	関わる力を高めるために、総合的な学習の時間が窓口になることがあります。地域とのかかわりとの中で関わる力を付けていきたいというのがあって、子供の力で地域が活性化していくような、両方がよくなっていくようなことができることが大切だと考えます。 今年度、防災の取り組みを地区でやっています。地域の課題について話し合うことはうれしいこと。地域の方も遅れているので、子供と一緒に考えていくのは大切だし、地域の防災につながっていくと思います。
副委員長	母親が赤ちゃんを見る目線、赤ちゃんが母親を認識すると目線が絡み合い、それが進むと学校と巡り合う。それが地域、社会へとつながっていくと思います。 子供の人間性の知の部分、子供の生きていく感情が、段階を経て育ちながら、相手の言いたいことは何だろうと考えられる子供を育てていく必要があると考えます。 大事なのは、一日の大半を占める授業。子供たちが自分の考えを持つために、教員は工夫します。一律の文章ではなく、そういう先生の投げかけが子供には知識理解とともに人間として味わうものがあります。そこで失敗することで反省したり友達の考えを受け止めたり、一緒にならない部分があるかもしれないが、自分はどうしたらいいかと考えるのではないのでしょうか。 子供一人一人の育ちの部分に目を向けると、子供を育てるためには、家庭では、学校では、高校ではという環境づくりが大切だと考えます。また、主体的な子供にしていくには、授業、行事、様々な学校場面で自分を見つめられる子、自分の意見を持てる子、原点がないと難しいと思います。根源として何が大事か考えさせられました。 子供を育てるということについて、人間を育てるための根底の部分がある

	ように感じました。
委員長	子供たちの生活において、学校の時間はすごく大きいので、学校が大切なのはわかるが、今回の話はどこまでの話になるでしょうか？
教育長	最終的には学校だけに限らないと考えていいと思っています。学校を取り巻く環境づくりと考えると、社会も関わってくるので、広げていただいて構わないと考えています。
委員長	地域と学校にってしまうと学校がある、地域と子供だと学校はでてこないのかなと思います。
教育長	最終的にはそこまで考えないと成り立たないのではないかと思います。
委員長	一度にはそこまでならないと思うので、とりあえずは学校を核として考えるということでよいでしょうか。
委員	どこまでを議論の対象にするかは常に考えるべきで、境界をなるべく区切らない大切さもあると考えています。確認したいところで、三つとも実現することを目指して議論するのか、どれか一つだけでもと議論していくかによって、学校と地域がどのようにかわっていくかを考えるときに視点が変わっていきそうな感じがします。 全部できたらいいけど、どれかできたらいいでもいいのかなと思っています。特色を出すには3つ全部でなくてもいいのではないのでしょうか。これはできるけど、あれはできないだと、今まで通りの教育になってしまう懸念があります。 力というのがどのように考えていくのか、自由度はあるのか確認したいです。
委員長	事務局の考えは？
教育監	全部ができるということはなかなかないと思います。理想を追っていくと平均的になるので、裾野としてここがというところがあるといいと思っています。
委員長	暫定的で、後で変えても構わないです。僕はそうではなくて、3つは絡みながら変わっていくようにも思います。3つを考えながら進めていく。このメンバーで議論したときに、ここは厚いけどここは薄いでも仕方ないかなと思います。 個々に考えてつながりを考えながら、ただ三つ直行していかないのが気持ち悪いが、それはそれで議論しながら明確にしていければよいのではないかと思います。
副委員長	3つが絡まっていけないと難しい。インクルーシブ1つとってもそれぞれが関わってくる。図にすると真ん中が個かなと思います。
委員	重なっている領域は面積的に広くて、アプローチの仕方が三つあるというところの方がしっくりくると思います。3つの入口があるけど、同じ山を登っていくという感覚で、しっくりきました。

委員長 委員	いろいろな人がそれなりの角度から入っていくプランでよいと思います。 3つの関係性について、絡まっているという認識ではないはずで、解きほぐせるはずと基本的には思っています。3つは目的と手段という関係性になるはずなので、絡み合うが性質は異なります。学校も含めたコミュニケーションという話で、3つは同心円状に広がっていく。一体的に実現せざるを得ないということになると思います。 先ほどの、八木さんの話はよかったです。弱さでつながることは、インクルージョンのベースとなると考えます。 日本の社会システムの中で、平均的にできるようにしていこうというのが使命だった部分があり、弱みを明らかにして平準化していこうという時代がありました。他方でそういうコミュニケーションが成り立たない部分があり、ポジティブな行動を支援するというやり方が確立されています。 ポジティブなフィードバックをしていく事例が、戸田市にあります。 しんどくなる局面は、関係性が硬直化し、ある局面を絶対視することで起こります。キャラ変ができる環境づくりが大切で、安心して変えられるというコミュニティは心理的安全性があるし、多様性を自分のこととして理解していくためにも必要です。 現在、いろいろな子供たちがいて、多様性が顕在化している時代になってきています。多様性が顕在化する、それが前提となる社会においては、それに合ったカリキュラムを作っていく必要があります。 そのためには、個別の指導計画、合理的配慮、全ての子供たちに支援を届ける多層型支援システムが必要になってきます。 ある程度セオリーが確立した部分については取り入れ、多様化していく学びを担保していくみたいなことができるといいのかなと思いました。 全ての子どもたちに個別の支援を届けるということで、全員の子どもたちを支援し、さらに必要な子には支援を加える。それが多層型支援システムの考え方です。 特別支援学校との交流は、やっても年に数回という状況になっています。また、特別な支援を必要とする子と交流しているのは4%に過ぎない状況になっているので、インクルーシブを掲げるのであればコミュニティをちゃんと混ぜるということが必要になってきます。特により一層分離が進む高等教育においては、交流の取り組みが必要というように思います。 いろいろな大人たちと混ざること担保しているっていうのを体験していこうという自治体もあるので、それらの実践を取り入れながらやっていくとより進みそうでいいというように思います。 委員長 委員 今のビジョンはわかりやすかったというように思います。 現在コミュニティ・スクールに関わっていて、小学校のことが頭に浮かびます。コミュニケーションとかインクルーシブとか、3つの柱を絞り込んで話していくのかと思ったけれど、いろいろな議論があるというように思っていました。 昔のあのことがよかったなど、今でも会話の中で出てきます。子供たちが成長する過程でいろいろなことがあるが、裾野の教育でいろいろな勉強ができたと感じてもらえるといいと思います。 コミュニケーションでも一番楽しいのは自由な遊びで、その次は教育と絡んだようなところが面白いので、教えられる世界というのはどうしても面白くないところがあると思います。学校にいる時間の中で、子供が自由に意見を述べ、遊べるように、子供たちの個性を生かした部分があると伸び
----------------------	--

	てくるのかなと思います。
委員長	高校になると、他市から来られている方もいるわけですが、高校と地域との関係で、アイディアというものがありますか。
委員	高校にももっと交流があってもよいのではないかと考えています。小・中と同じような形で地域と関わるというのは、難しいかもしれませんが。コミュニケーションにしてもインクルーシブにしても、抽象的な言葉が多いように思います。言葉が上に行くほど、考えることが違ってくるように思うので、具体的に言葉を使っていたきたいなというのがあります。
委員長	問題を提起してもらわないと考えられないということもあるかと思いますが。発散型と終息型。事務局が収束をお願いします。
委員	自分を生かす教育とは何か。自分を生かす教育という言い方がわからないというのがあって、子供たちがやりたいことを許す教育というように見た方がいいと思いました。子供たちがやりたいか、楽しいか、そのような場を設けると良いのではないかと考えています。 身近なところでいうと、深良小ではたから探しの日というのがあります。その日の午後は、子供たちが企画したことをやっていい日。そういうことってすでにやっているところがあるので、そういったことをやると思います。大人も子供もやれる日をつくり、それに参画して楽しむというのがベースにあるといいと思っています。 子供たちも低学年、高学年、中学生、それぞれで企画はどうやってやるのか学ぶ機会を持つと良いのではないのでしょうか。どういうことを考えたら実現できるのか、用意してあげたら実現できるのではないかと思います。子供たちが参画してどういう学校にするかというのもよいと思います。東小、向田小ではいろいろなことを子供たちと一緒に考えていて、アットホームな取組になっています。一つのことに向かって活動していて、自立とか主体性を持った行動をできるようになるのかなと思います。
委員	自分の勤務校でも、子供たちがやりたいことを大事にしています。今、月に1回、子供たちと考えていて、夏休み中にきもだめしを地域の方々の協力で実現できました。 主体性のところでいうと、教員側はいいと言っているが、子供たちにアンケートを取ってみると受け身的な部分が目立つところがあります。どうやったら自分たちがやりたいことができるのかを地道にやっていくことは、自分の「やりたい」ができる教育につながってくるのかなと思いました。
委員長	プロジェクトチームが裏で動いているんですね。市内でどのようなことをやっているか知っていますか。
プロジェクト 会議委員長	昨年からプロジェクトで出たことを受けて、ここでこんなことをやっていくといいよねというように考えています。前は、企業とつながってやっていることを整理していく必要があるということで、そういう方法を集めるかということで話が出ています。いろいろな学校が持っている財産を共有することで、裾野市全体がプラスになっていく、情報共有をやっていく必要があるということで会議を行いました。今日の会議を受けて、情報収集できること、やれることを模索していきたいと思います。

委員長	今日出た、子供たちがやりたいことをやる時間は面白そうなので、共有していってもらえればと思います。
副委員長	自分の学校の実態にあった方法で組まれていく。全部をまねするのではなくて、学校の自分たちのところに戻して、こういうモデルがあるんだけど各校、各幼稚園のやり方に合わせていくと、特有のものができていくように思います。
委員	こうしなければならないとなると、窮屈になると感じています。かっちり決まっているものは面白くないし、硬直化してきます。ノウハウをシェアしてためていくよりも、こうするといいいいというものをためていくと、環境を作る側にも余白があってやりがい生まれるのではないかと思います。
副委員長	委員が言っていた、十数年たって良かったよなと思えるのはいいなと感じます。
委員	マストみたいなものが働くと、それがゆえに指示待ちになったりして、せっかくのプロジェクトがおもしろくなかったとなってしまう。マストを意識的に緩和することが大切。何かできるかもしれないと思ったり、チャレンジしたいと思ったりしたとき、マストをどうやって緩めるか。可能性を伸ばすと思うし、こうじゃなきゃいけないということがあると縮小均衡してしまうので、拡散を恐れずにやっていくということが大切だと思います。もしかしたら、フランクな場で話すことでアイディアが出るかもしれないのでいいかなと思っています。
委員長	余白のある教育の取組みたいなもので、違う軸が出てきてまた新しいアイディアが出るかもしれない。ここから広がっていくと思うので、またお願いします。 それでは、予定されておりました議事はすべて終了しました。皆様のご協力により議事をスムーズに進めることができました。進行を学校教育課長にお返しします。
学校教育課長	ありがとうございました。 それでは、次に 「その他」 となります。何かございますか。
教育監	1 点、前回の委員会議事録の確認と市ホームページへの議事録の公開について今日、前回の議事録（要点筆記）を資料としてお分けしました。ご一読いただき、何か修正する点や変更点がありましたら連絡をいただきたいと思います。
学校教育課長	他に、何かございますか。無ければ、閉会に移らせていただきます。閉会のあいさつを教育部長、お願いします。
教育部長	次回の日程につきましては、10月25日（金）となりますので、よろしくをお願いします。また、事前に開催通知や資料等の準備が整いしだい送付させていただきます。 最後に、皆様方から、何かございますか。 無いようですので、これで「第2回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。お疲れ様でした。